

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890700036
法人名	NPO法人 アクティブボランティアセンター阿蔵の森
事業所名	グループホーム阿蔵の森
所在地	大洲市阿蔵甲 1 9 6 1 番地 4
自己評価作成日	平成22年1月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年1月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・山のふもとにあり、立地環境がよく季節感を感じて日光浴・散歩に適している。                  ・個々にあわせてゆったりと安心した生活ができる様努めている</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所では、利用者が自由に行動できるような支援に努め、ご家族には転倒の危険性や外出されることについてのリスク等を説明して了解を得ておられる。利用者が夕方決まった時間に出ようとされる場合は、その時間帯に職員を増員して対応されている。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム阿蔵の森

(ユニット名) B

記入者(管理者)

氏名 宮田 昭

評価完了日 平成 22年 1月 17日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「あたたかい手」「明るい笑顔」「やすらぎの空間」という理念の基に、グループホーム全体で月に1回ミーティングを行なっている。	
			(外部評価) 職員のあたたかい手や笑顔が、利用者の笑顔につながり「事業所がやすらぎの場となるように」との思いを込めて、理念を作られている。開設されて3年、管理者は「まず事業所内を充実させていきたい」と考えられている。	今後は、地域密着型サービス事業所として、地域の中でどのようなことを目指していくのかということ、職員と一緒に考えていきたいと管理者は話しておられた。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 小学校の運動会、地区の盆踊り、保育園児が来所して頂いたり、参加、見学を行っている。	
			(外部評価) 小学校の運動会や地区の盆踊りに参加されたり、保育園児の訪問があり、歌やお遊戯を見せてくれている。小学校の田で作ったもち米を頂き、お礼に2月の開所記念に餅をついてお返しをされ、近所にも配られた。	地区のサロンから映画鑑賞に招待され、参加を検討されているところである。利用者個々が地域の一員として地域の中で暮らし続けられるように、地域の方達とかかわる機会を増やしていかれてはどうか。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を活用して、公民館、小学校、他グループホームからのイベント等の誘いを受けたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実                      際、評価への取り組み状況等について報告                      や話し合いを行い、そこでの意見をサービ                      ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月に1回行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議では、事業所の活動報告をされている。新たに地区代表の委員が参加されるようになり、サロンの情報等がいただけるようになった。会議の日程によっては参加者が少なかったり、参加者からのご意見が少ないこともある。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、                      事業所の実情やケアサービスの取組みを積                      極的に伝えながら、協力関係を築くように                      取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的に連絡会、勉強会が開かれ市町村と連携をとり                      質の向上に努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>市主催の「グループホーム担当者会議」では、管理者                      が交代で勉強会を企画し、他グループホームの方達と                      ともに学んでおられる。アンケートをとった時には、                      市の担当者がまとめてくださる等、協力してくださっ                      ている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準におけ                      る禁止の対象となる具体的な行為」を正し                      く理解しており、玄関の施錠を含めて身体                      拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>無断外出される入居者に対して家族への説明、理解し                      て頂くようにしている。無断外出された場合一緒に職                      員が付くようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所では、利用者が自由に行動できるような支援に                      努め、ご家族には転倒の危険性や外出されることにつ                      いてのリスク等を説明して了解を得ておられる。利用                      者が夕方決まった時間に出ようとされる場合は、その                      時間帯に職員を増員して対応されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  市の職員に相談にのってもらっている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  制度に関する勉強会は出来ていないと思う。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  十分に説明し、納得された上で捺印、サインをもらっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  出来ている。面会時に声かけを行い、利用者様の近況報告をし、ご家族とのコミュニケーションを図るよう努めている。  (外部評価)  ご家族が面会に来られた時や、遠くのご家族には電話で近況を報告されている。以前は管理者が全員の報告をしていたが、現在は職員が伝えておられる。	          事業所が提供するケアサービスについてのご意見を具体的に引き出せるように、報告のあり方や働きかけ等を工夫していかれてほしい。又、家族会で家族同士が話し合えるような場を作る等、事業所のさらなる質の向上に向けて、ご家族のご意見をうかがってほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			定期的にミーティングの機会を設けている。	
			(外部評価)	
			職員が日々のケアの中で気付いたことは、ユニットの責任者を通じて代表者に伝わるようになっている。月1回のミーティングでは、職員が一言は発言するようにすすめておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			現在は、個々の評価は行っていないが、今後各自での面接等を行い、給与水準等に反映していく。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			職員とのコミュニケーションはとれているが、研修を受ける機会は少ないと思う。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			定期的にミーティング実施 他施設への見学等行っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			出来ている。ゆっくりとコミュニケーションをとれる時間を作り、ご本人の不安を取り除き安心して生活して頂けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	面会に来られた時に話を聞いたりしている。あまり面会に来られない家族には意見書を書いて郵送している。
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	事前にアセスメント等を行い、把握して、本人・家族等にあったサービスを提供するよう心がけている。
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	若い頃の話や体験談などを聞いたりいろいろな事を教えて頂いている。
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	家族の希望に沿うように対応している。また、自宅にいる時のような環境作りに努めている。
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	入居者が家族に連絡して欲しいと訴えがあれば連絡している。会いたいと訴えあれば面会にきていただいている。
			(外部評価)	
			古くからの友人が時々訪れてくれており、利用者は思いつけないこともあるが、表情がいつもと違って明るくなるようである。行きつけの美容院に通われている利用者もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)  入居者一人ひとりの性格を把握しいろいろな手伝いを協力してやっている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)  医療機関、家族と情報提供や話し合いが出来るように連携をとっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)  自分の意思表示ができる方には実現できる事は実施している出来ない方には、家族からの情報や日頃の言動から把握するように努めている。  (外部評価)  センター方式の様式でアセスメントされている。日頃の会話の中から分かったこと等、日々の経過記録に記入するようになっている。	事業所では、アセスメントの様式と毎日の個別記録の様式を分かり易く、介護計画に反映できるようなものにしたと検討されているところである。さらに、利用者の懐かしい人や場面、得意な事や興味のある事など、利用者の思いや意向を引き出せるよう、職員の関わり方を工夫していかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)  事前調査によって本人、家族からできるだけ詳しく聞き、ケアプランに反映している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)  一人ひとりの日常生活を観察し、状況を分かりやすく記録している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>サービス担当社会を開き、入居者及び家族の意見を聞き入居者が安心して生活出来るよう介護計画を立てている。</p> <p>職員で話し合い、介護計画を作成されており、3ヶ月に1回見直すようになっている。</p>	<p>今後、事業所では、介護保険の書き換え時にご家族と話し合う機会を作りたいと考えておられた。利用者ご本人の思いをご家族と共有して、ご本人主体の生活を支援していけるよう、介護計画について話し合われてみてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々の生活や健康面の状況を明確に記録し、その情報をミーティングで共有することによって、介護計画に活かしている</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人や家族の要望があれば買い物やドライブへ行ったりしている。利用者のカットや毛染めもご本人と家族の希望に合わせて行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>併設のデイサービスにおいてボランティアの来所があれば参加している。小学校より学校行事の案内をいただいたり、地区の盆踊り等の案内をいただくので希望者は参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人ご家族が希望される病院へは、ご家族が付き添 われているが、難しい方はスタッフが付き添って いる。ご家族が事業所に任せる場合は24時間体制で提携 している協力病院を活用し2週間に1回往診に来られて いる。 (外部評価) 入居前からのかかりつけ医を通院されたり、協力医に 往診をしていただいたりしている。受診の付き添いを ご家族ができない場合は職員が同行し、受診の結果は お互いに報告し合うようにされている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 内科医が週2回往診に来られており、外科医、歯科医と もいつでも相談できる体制をとっている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関と情報交換に努めており、早期に退院でき るよう協力している。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状態の変化時には家族に報告し主治医の指示 を受けながら行っている。 (外部評価) 「医療連携体制が整っていないため重度化した場合は 事業所での支援が困難になる」ということをご家族に 説明し、了解していただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  定期的な訓練は行っていない。 主治医看護師の指示、指導を受けながら実践力を身に付けている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  消防署の協力を得て、定期的に避難訓練を行っている。	
			(外部評価)  年に2回の避難訓練は、夜間想定で消防署の協力を得て行われている。2階は歩ける利用者が多いので、声をかけるとそれぞれ階段を降りることが出来るようである。居室の名札の裏に「確認済」と書いてあり、避難が完了すると裏返すことになっている。避難場所は近くの集会所となっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  その場、その時の状況に応じた、言葉かけや対応ができる様に努力している。	
			(外部評価)  事業所通信「森のたより」への利用者の写真や名前の掲載については、了解を得られた利用者だけにされている。  職員の声かけの仕方によって、利用者が落ち着かなくなったりすることがあるようだ。日々のケアの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない声かけについて、職員で話し合ってみられてはどうか。又、時にご家族や運営推進会議のメンバーの方達に、事業所のケアについてご意見を聞いてみるような機会を作ってみてはどうだろうか。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  ゆっくり話を聞き、言葉を引き出したり、話しの先取りをしない様にしながら自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や入浴に関しても一人ひとりの希望を優先し無理強いすることの無いように、心がけ、穏やかに過ごせるよう支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 上衣、ズボンの組み合わせに配慮したり、髪をカットして清潔を保ち、おしゃれができるように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と利用者が会話を楽しみながら、一緒に食事をとっている。準備や片付けの出来る利用者には職員と一緒にいる。	
			(外部評価) テーブルを拭いたり、食器を洗ったりされている利用者の姿が見られた。二つのユニットに同じ食材が渡るが、献立はそれぞれの職員が立てておられる。季節の野菜等が食卓に上ると「もうそんな季節か」と食卓の話題になることもある。時々、道の駅等へ外出に出かけることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量もチェックをしている。水分摂取量に関しても記録を残しながらチェックしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に歯磨きを行っている。義歯の洗浄も週1回行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)  利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し自立に向けた排泄支援を行っている。  (外部評価) 24時間の表で排泄の状態が分かり、何日間便秘しているかも分かるように記録されている。尿・便意を伝えることのできる利用者は、パッド等を利用して誘導されている。訴えることが難しい利用者は、時間をみてトイレに誘導し、気持ち悪い思いをさせないように支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)  飲食物の工夫と個々にあった運動を行い便秘の予防に努めている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)  利用者の希望に応じてゆっくりと入浴が出来るように配慮している。  (外部評価) 入浴時間を午前・午後で選べるように声かけされたり、毎日入浴したい方は希望に添うようにされている。男性職員だと安心して入浴される方、女性職員でないと駄目な方等、一人ひとりに合わせて誘うようにされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)  夜眠れない利用者に対しては散歩など日中の活動量を増やしたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  配薬時には名前を言って渡すようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  子供の頃、昔の遊びを思い出し、楽しんでいただく(花札等) 洗濯干したり、洗い物していただく。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  暖かい日は、日光浴していただく。足湯、花見、ドライブ等出かけ楽しんでいただいている。顔がいきいきされる。	
			(外部評価)  天気のよい日は、玄関横の椅子や車椅子で日光浴をされている。散歩に事業所の周囲を、疲れな程度に歩かれている。又、月に1回くらいドライブに出かけられる。	利用者一人ひとりに、思い出の場所や懐かしい所があるのではないだろうか。個々の思い等をお聞きしながら、個々の行きたい場所等に出かけるきっかけにされてはどうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  スーパーへ行き、好みのお菓子等買って楽しんでもらう。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  家族に電話して話ししていただく。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間には季節感を採り入れた壁飾りや写真、テレビがあり楽しく過ごせるよう工夫されている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者と職員で鬼の面を折り紙で作し、壁に貼っておられた。季節によって壁飾りを替えておられる。テレビの前にはソファが置かれ、横には畳のコーナーもある。玄関を一步出るとミニ庭園があり「これが見えるところは一等席」と利用者が言っておられた。ホールから離れた廊下の先に椅子が置かれ、ある利用者の居場所となっている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホールには畳の居間や、ソファが置いてあり、個々の好きな場所で過ごしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>今までに使い慣れた家具等を居室に配置し居心地よく過ごして頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>各室には洗面台が設置され、各自で化粧品等も使って整容されている。ベッドとタンスは備え付けで、衣装ケースやテレビ、冷蔵庫、夫の位牌等を持ち込まれている。好きな本や新聞を読んでおられる方もある。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの出来る事をして頂き、できない所だけ援助している。</p>	